

201221019B

厚生労働科学研究費補助金
がん臨床研究事業

化学療法先行治療を進行卵巣がんの
標準治療とするための研究
(H22 - がん臨床 - 一般 - 020)

平成22年度～24年度 総合研究報告書

研究代表者 吉川 裕之

筑波大学 医学医療系
産科婦人科学 教授

平成25(2013)年 3月

目 次

I. 総合研究報告書	
化学療法先行治療を進行卵巣がんの標準治療とするための研究 -----	1
吉川 裕之	
II. 研究成果の刊行に関する一覧表 -----	42
III. 研究成果の刊行物・別刷 -----	45

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
総合研究報告書

化学療法先行治療を進行卵巣がんの標準治療とするための研究

研究代表者 吉川 裕之 筑波大学医学医療系 産科婦人科学・教授

研究要旨

2011年10月に進行卵巣がんにおいて化学療法先行治療を確立するための本試験(JCOG 0602)の症例集積を終了した。非劣性試験であり、主要評価項目は全生存期間である。最終解析は2016年になる予定だが、2014年に中間解析を予定している。2012年度は化学療法先行治療が標準治療になるために証明が必要な新規病期診断法と低侵襲性について検討した。手術先行群で検討した術前診断の正診率(病期診断と原発診断)は98.5% (132/134)であった。MRI/CTの施設診断、中央診断と開腹所見の比較検討を画像中央診断委員会で行っている。手術回数、総輸血頻度、凍結血漿使用頻度、ヒトアルブミン製剤使用頻度で化学療法先行治療の低侵襲性が立証された。

研究分担者

恩田 貴志
北里大学医学部
婦人科・教授
勝俣 範之
日本医科大学武蔵小杉病院
腫瘍内科・部長
松本 光史(平成23-24年度)
兵庫県立がんセンター
腫瘍内科・医長
嘉村 敏治
久留米大学医学部
産婦人科・教授
八重樫 伸生
東北大学大学院医学系研究科
婦人科学分野・教授
高野 政志
防衛医科大学校病院
産科婦人科・講師
中西 透(平成22年度)
愛知がんセンター中央病院
婦人科・部長
小西 郁生(平成22年度)
京都大学大学院医学研究科
婦人科学産科学・教授
星合 昊(平成22-23年度)
近畿大学医学部
産婦人科・教授
渡部 洋(平成24年4月-平成25年1月)
近畿大学医学部
産科婦人科・准教授
中井 英勝(平成25年2月-3月)
近畿大学医学部
産婦人科・講師
齋藤 俊章
国立病院機構九州がんセンター
婦人科・部長

落合 和徳
東京慈恵会医科大学
産婦人科・教授
中川 俊介(平成22-23年度)
帝京大学医学部
産婦人科・講師
川名 敬(平成24年度)
東京大学医学部
産婦人科・准教授
横田 治重
埼玉県立がんセンター
婦人科・部長
日浦 昌道(平成22-23年度)
国立病院機構四国がんセンター
手術部・部長
野河 孝充(平成24年度)
国立病院機構四国がんセンター
手術部・部長
小林 裕明
九州大学大学院医学研究院
生殖病態生理学・准教授
竹島 信宏
がん研有明病院
婦人科・部長
岡田 智志(平成22年度)
国立がん研究センター
婦人科・医員
山本 嘉一郎(平成23-24年度)
近畿大学医学部堺病院
産婦人科・教授
関 博之(平成23-24年度)
埼玉医科大学総合医療センター
母体胎児部門・教授
笠松 高弘(平成24年度)
国立がん研究センター
婦人科・科長

A. 研究目的

III、IV期の卵巣がん、卵管がん、腹膜がんに対して、手術の前後に4コースずつ計8コースの化学療法を行う「化学療法先行治療」が、現在の標準治療である、手術後に計8コースの化学療法を行う「手術先行治療」よりも有用であるかどうかをランダム化比較試験（非劣性試験）にて検証する。Primary endpoint：全生存期間。Secondary endpoints：完全腫瘍消失割合、無増悪生存期間、奏効割合（B群のみ）、有害事象、手術侵襲指標（開腹手術回数、総開腹手術時間、出血量、総輸血量、総血漿製剤使用量）。

B. 研究方法

研究形式は多施設共同の第III相ランダム化比較試験（非劣性試験）。対象症例は、開腹以外の手段で組織学的または細胞学的に診断され、CT/MRIで進行期分類された上皮性卵巣がん、卵管がん・腹膜がんIII/IV期の初回治療例で、20-75才、CA125>200 IU/ml、CEA<20 ng/ml、ECOG PS 0-3、適当な骨髄・肝・腎機能が保持され、初回腫瘍縮小手術の対象となりうる症例とする。

症例登録とランダム割付は、データセンターでの中央登録方式をとる。電話またはFAXにて症例登録を行い、適格性の確認後、治療群の割付を受ける。ランダム化割付には、調整因子として施設、PS、臨床進行期、年齢を用いる。

解析方法としては、予定症例数の半数の登録時点と症例集積終了後にログランク検定にて両群の生存期間を比較する。予定登録数：各群150例、両群計300例。症例数算定の根拠は次のとおりである。NAC療法が標準治療に劣るかどうかは関心事項ではないため、有意水準 $\alpha=0.05$ の片側検定とする。PCSの真の3年生存率を25%と想定し、NACがそれを下回る許容限界を5%とする。NAC療法の真の3年生存率が30.3%であれば、80%の検出力で非劣性を検証することができる。

実施施設は、本研究の研究者の所属施設を中心に、全国の卵巣がん治療の基幹施設は最初36施設であったが40施設となった。

（倫理面への配慮）

参加患者の安全性確保については、正確な診断、有用性の高い治療等に配慮がなされており、試験参加による不利益は最小化される。また、「臨床研究に関する倫理指針」およびヘルシンキ宣言等の国際的倫理原則に従い以下を遵守する。

1) 研究実施計画書（プロトコール）のIRB承認が得られた施設からしか患者登録を行わない。2) すべての患者について登録前に十分な説明と理解に基づく自発的同意を本人より文書で得る。3) データの取扱い上、患者氏名等直接個人が識別できる情報を用いず、かつデータベースのセキュリティを確保し、個人情報（プライバシー）保護を厳守する。研究の第三者的監視：本研究班により、もしくは賛同の得られた他の研究代表者と協力して、臨床試験審査委員会、効果・安全性評価委員会、監査委員会を組織し、研究開始前および研究実施中の第三者的監視を行う。

C. 研究結果

平成23年度までの研究成果としては、第II相試験の論文がGynecologic Oncologyに報告された。完全腫瘍消失率が42%で、診断的開腹・腹腔鏡が省略できることなどが報告された。第III相試験のデザインペーパーがJpn J Clin Oncol.に論文発表されている。平成23年度には、卵巣癌の術前化学療法に関するreview執筆がExpert Review of Anticancer Therapyより依頼され、執筆・発表した。

予定登録数300名、登録期間3年（途中で4.5年に延長）であったが、平成23年10月7日に301名で登録を終了した。「低侵襲性確認」「病期診断正診率」解析を行うためのプロトコール改定を行い、平成23年11月2日にJCOG効果・安全評価委員会にて、「有効性を除く短期的なエンドポイントのデータの早期公表」が承認された。

最新（平成24年度）の成果は以下のとおりである。

(1) 最新モニタリングレポート

最新のモニタリングレポート（平成24

年9月14日)によると、調整因子は、病期、年齢、PSである。登録時の画像による病期はA群;III期103名、IV期46名、B群;III期106名、IV期46名、年齢中央値はA群59歳、B群60.5歳、PSは0-1、2-3が、A群で130名、19名、B群で131名、21名であった。

手術先行治療(A群)において術前診断の正診率(病期診断と原発診断)について検証し、高い正診率が確認された(98.5%[132/134])。化学療法先行群(B群)でも同様の正診率と推定される。手術に関しては、A群のPDSで、残存腫瘍0は11.1%(15/135)、1cm未満は25.9%(35/135)。A群で残存腫瘍が1cm以上の場合にoptionとして行うIDSは33.3%(45/135)に行われた。A群IDSでの残存腫瘍0が53.3%(24/45)、1cm未満が20.0%(9/45)、1cm以上が24.4%(11/45)。B群でのIDSでは残存腫瘍0が60.3%(70/116)、1cm未満が19.8%(23/116)、1cm以上が17.2%(20/116)であった。

化学療法先行群(B群)の低侵襲性については、A群の平均開腹手術数1.30回(B群1回)。総輸血頻度は、A群68.1%(92/135)、B群50.7%(68/134)、凍結血漿は、A群29.6%(40/135)、B群14.2%(19/134)、プラズマプロテインフラクシオンは、A群18.5%(25/135)、B群9.0%(12/134)、ヒトアルブミン製剤は、A群62.2%(84/135)、B群20.9%(28/134)。

平成23年5月の生命予後については、全生存期間中央値は54.5か月、無増悪生存期間中央値は15.5か月であり、最近発表されたEORTC studyのそれぞれ30か月、12か月を上回っている。3年生存割合は59.6%、3年無増悪生存割合は19.6%であった。イベント数は、解析対象301で、死亡112、死亡・増悪223である。

D. 考察

本試験治療(B群、化学療法先行治療)が標準治療になるためには、生命予後に

おける非劣性を証明することに加え、1). 低侵襲であることの立証、2). 画像などによる病期診断の正診率が高いことを示すことが重要となる。

低侵襲性の立証については、開腹手術回数、総輸血量・総血漿製剤使用量などでB群が低侵襲であることはモニタリングから明らかであるが、有害事象、総開腹手術時間などについては試験治療終了段階までは検討できない。

本臨床試験のA群(手術先行治療群)149名では、細胞診、画像、腫瘍マーカーによる病期診断と手術所見による病期診断と比較することができる。A群を用い、細胞診、画像、腫瘍マーカーによる病期診断の正診率を検討する(手術前の病期診断の方法はA群とB群とは全く同一であり、A群での正診率はB群での正診率に代用できる)。さらに、CT/MRIなどの中央画像診断を行い、詳細に検討する。中央画像診断の方針、調査項目が決定された。

本臨床試験は標準治療である手術先行治療に対して、化学療法先行治療が3年生存割合で劣らないことを検証する非劣性試験である。JCOG0602のこれまでの定期モニタリングでは、化学療法先行治療はより低侵襲な治療として新たな標準治療となることが期待される。

また、化学療法先行治療が標準治療になる場合、細胞診/画像による病期診断が正式の診断法として認められる必要があるが、本研究で診断法を提案することが期待できる。生存率の非劣性に加え、手術回数減少、手術時のPS改善、合併切除の減少、合併症減少、輸血・血漿・タンパク製剤の使用頻度の減少など治療の低侵襲化が期待される。医療経済改善に貢献するとともに、治療が定型化しやすく、均てん化にも貢献できる。DPCにも対応しやすい。個々の手術数減少(1.3回から1回)はがん専門病院での治療数増加にも繋がり、急増する卵巣癌症例数

に対応できる体制が整う。大量腹水貯留のまま手術を行う現在の治療体系は、手術までの長期間の待機、長時間の手術、厳重な術後管理などが必要であり、化学療法先行治療は患者の安全性確保にも貢献すると考えている。以上から、患者のQOLに優れ、均てん化もしやすく、増加する患者にも対応が可能で、医療経済的にもすぐれた治療体系の確立が期待できる。

E. 結論

本第 III 相試験の登録を終了した。EORTCにおける同様の試験が2010年、New Eng J Medに発表され、化学療法先行治療の非劣性が報告された。この結果からは、化学療法先行治療が標準治療になってしかるべきだが、実際にはそうになっていない。その理由は、化学療法先行治療の低侵襲性の証明が不十分なことと、開腹によらない新病期分類が提唱されなかったことである。本臨床試験では、そのEORTC試験の2つの弱点について検討できるように計画されており、平成23年度に早期解析、早期発表が可能なプロトコール改定を行い、平成24年度にその解析を進めてきた。

F. 研究発表

1. 論文発表

1. Saito I, Katsumata N, Konishi I, Yoshikawa H, Kamura T, et al. A phase III trial of paclitaxel plus carboplatin versus paclitaxel plus cisplatin in stage IVB, persistent or recurrent cervical cancer: Gynecologic Cancer Study Group/Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG0505). Jpn J Clin Oncol, 2010, 40(1): 90-93.
2. Satoh T, Watanabe Y, Yaegashi N, Ochiai K, Takano M, Yokota H, Nakagawa S, Kobayashi H, Nakanishi T, Kamura T, Konishi I, Yoshikawa H, et al. Outcomes of fertility-sparing surgery for stage I epithelial ovarian cancer: a proposal for patient selection. J Clin Oncol, 2010, 28(10): 1727-1732.
3. Tanaka YO, Okada S, Yoshikawa H, et al. MRI of endometriotic cysts in association with ovarian carcinoma. Am J Roentgenol, 2010, 194(2): 355-361.
4. Nagano M, Yoshikawa H, et al. Hypoxia responsive mesenchymal stem cells derived from human umbilical cord blood are effective for bone repair. Stem Cells Dev, 2010, 19(8):1195-1210.
5. Nagase S, Watanabe Y, Ochiai K, Kamura T, Konishi I, Yoshikawa H, Yaegashi N, et al.; Japan Society of Gynecologic Oncology. Evidence-based guidelines for treatment of cervical cancer in Japan: Japan Society of Gynecologic Oncology (JSGO) 2007 edition. Int J Clin Oncol, 2010, 15(2):117-124.
6. Konno R, Yoshikawa H, et al. Efficacy of human papillomavirus 16/18 AS04-adjuvanted vaccine in Japanese women aged 20 to 25 years: interim analysis of a phase 2 double-blind, randomized, controlled trial. Int J Gynecol Cancer, 2010, 20(3):404-410.
7. Matsumoto K, Okada S, Yoshikawa H, et al. Interleukin-10 -1082 gene polymorphism and susceptibility to Cervical Cancer among Japanese Women. Jpn J Clin Oncol, 2010, 40(11):1113-1116.
8. Shibata T, Yoshikawa H, et al. Characterization of the acid-alkaline transition in the individual subunits of human adult and fetal methemoglobins. Biochemistry, 2010, 148(2):

- 217-229.
9. Konno R, Yoshikawa H, et al. Efficacy of human papillomavirus type 16/18 AS04-adjuvanted vaccine in Japanese women aged 20 to 25 years: final analysis of a phase 2 double-blind, randomized controlled trial. *Int J Gynecol Cancer*, 2010, 20(5):847-855.
 10. Ogishima H, Yoshikawa H, et al. High-dose unfractionated heparin therapy in a pregnant patient with antiphospholipid syndrome: a case report. *Int J Rheum Dis*, 2010, 13(3):e32-35.
 11. Saida T, Yoshikawa H, et al. Can MRI predict local control rate of uterine cervical cancer immediately after radiation therapy? *Magn Reson Med Sci*, 2010, 9(3):141-148.
 12. Konno R, Yoshikawa H, et al. Cervical Cancer Working Group report. *Jpn J Clin Oncol*, 2010, 40 Suppl 1:i44-50.
 13. Matsumoto K, Yaegashi N, Watanabe Y, Yoshikawa H, et al. Tobacco smoking and regression of low-grade cervical abnormalities. *Cancer Sciences*, 2010, 101(9): 2065-2073.
 14. Tran TC, Yoshikawa H, et al. Identification of human placenta-derived mesenchymal stem cells involved in re-endothelialization. *J Cell Physiol*, 2011, 226(1):224-235.
 15. Fujiwara K, Yoshikawa H, Katsumata N, et al. A randomized Phase II/III trial of 3 weekly intraperitoneal versus intravenous carboplatin in combination with intravenous weekly dose-dense paclitaxel for newly diagnosed ovarian, fallopian tube and primary peritoneal cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 2011, 41(2): 278- 282.
 16. Konno R, Yoshikawa H, et al. Prevalence and type distribution of human papillomavirus in healthy Japanese women aged 20 to 25 years old enrolled in a clinical study. *Cancer Sci*, 2011, 102(4):877-882.
 17. Matsumoto K, Yaegashi N, Watanabe Y, Yoshikawa H, et al. Predicting the progression of cervical precursor lesions by human papillomavirus genotyping: a prospective cohort study. *Int J Cancer*, 2011, 128(12):2898-2910.
 18. Tanaka YO, Okada S, Yoshikawa H, et al. Ovarian serous surface papillary borderline tumors form sea anemone-like masses. *J Magn Reson Imaging*. 2011, 33(3):633-640.
 19. Nakamura E, Okada S, Yoshikawa H, et al. Villin1, a diagnostic marker for endometrial adenocarcinoma with high grade nuclear atypia. *Cancer Biology & Therapy*, 2011, 12(3): 181-190.
 20. Tanaka YO, Okada S, Yoshikawa H, et al. Solid non-invasive ovarian masses on MR: Histopathology and a diagnostic approach. *Eur J Radiol*. 2011, 80(2): e91-e97.
 21. Matsumoto K, Kawana K, Yaegashi N, Watanabe Y, Yoshikawa H, et al. Subsequent risks for cervical precancer and cancer in women with low-grade squamous intraepithelial lesions unconfirmed by colposcopy-directed biopsy: results from a multicenter, prospective, cohort study. *Int J Clin Oncol*, 2012, 17(3):233-239.
 22. Inamine M, Yaegashi N, Yoshikawa H, et al. Cigarette smoke stimulates VEGF-C expression in cervical intraepithelial neoplasia (CIN) 1 and 2 lesions. *Int J Clin Oncol*, 2012, 17(5):498-504.
 23. Matsumoto K, Yaegashi N, Watanabe Y, Yoshikawa H, et al. HLA Class II DRB1*1302 1 allele protects against

- progression to cervical intraepithelial neoplasia grade 3: A multicenter, prospective, cohort study. *Int J Gynecol Cancer*, 2012, 22(3):471-478.
24. Matsumoto K, Yoshikawa H. Human papillomavirus infection and risk for cervical cancer in Japan. *J Obstet Gynaecol Res*, 2013, 39(1): 7-17.
 25. Abe A, Okada S, Yoshikawa H, et al. PIK3CA overexpression is a possible prognostic factor for favorable survival in ovarian clear cell carcinoma. *Human Pathology*, 2013, 44(2):199-207.
 26. Michikami H, Okada S, Yoshikawa H, et al. Safety and efficacy of substituting nedaplatin after carboplatin hypersensitivity reactions in gynecologic malignancies. *J Obstet Gynecol Res*, 2013, 39(1):330-335.
 27. Satoh T, Yoshikawa H, et al. Rapid genotyping of carcinogenic human papillomavirus by loop-mediated isothermal amplification using a new automated DNA test (Clinichip HPV). *Journal of Virological Methods*, 2012, 188(1-2): 83-93.
 28. Nakao S, Yoshikawa H, et al. Monoclonal antibodies recognizing cross-neutralization epitopes in human papillomavirus 16 minor capsid protein L2. *Virology*, 2012, 434(1): 110-117.
 29. Nagata C, Yoshikawa H, et al. Increased expression of OCIA domain containing 2 during stepwise progression of ovarian mucinous tumor. *Pathol Int*, 2012, 62(7):471-476.
 30. Takeda T, Yoshikawa H, Kobayashi H, Yaegashi N, et al. Guidelines for office gynecology in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists 2011 edition. *J Obstet Gynaecol Res*, 2012, 38(4): 615-631.
 31. Ochi H, Kawana K, Yaegashi N, Watanabe Y, Yoshikawa H, et al. Do neutralizing antibody responses generated by human papillomavirus infections favor a better outcome of low-grade cervical lesions? *J Med Virol*, 2012, 84(7):1128-1134.
 32. Yoshikawa H, et al. Efficacy of quadrivalent human papillomavirus (types 6, 11, 16, and 18) vaccine (GARDASIL®) in Japanese women aged 18 to 26 years. *Cancer Science*, in press.
 33. Satoh T, Yoshikawa H, et al. Incidence of venous thromboembolism before treatment in cervical cancer and the impact of management on venous thromboembolism after commencement of treatment. *Thrombosis Research*, in press
 34. Fujii T, Kawana K, Yaegashi N, Watanabe Y, Yoshikawa H, et al. Association between carotenoids and outcome of cervical intraepithelial neoplasia: a prospective cohort study. *Int J Clin Oncol*, in press.
 35. Katsumata N. Dose-dense paclitaxel for advanced ovarian cancer - Authors' reply. *Lancet* 2010, 375:281.
 36. Tamura K, Katsumata N, et al. Fc γ R2A and 3A polymorphisms predict clinical outcome of trastuzumab in both neoadjuvant and metastatic settings in patients with HER2-positive breast cancer. *Ann Oncol*. 2011, 22(6):1302-1307.
 37. Tanioka M, Katsumata N, et al. Second platinum therapy in patients with uterine cervical cancer previously treated with platinum chemotherapy. *Cancer Chemother*

- Pharmacol. 2011, 68(2):337-342.
38. Aoki D, Katsumata N, Nakanishi T, Hiura M, Ochiai K, et al. A phase II clinical trial of topotecan in Japanese patients with relapsed ovarian carcinoma. *Jpn J Clin Oncol*, 2011, 41(3):320-327.
 39. Takahashi T, Katsumata N, et al. Multicenter, phase II, placebo-controlled, double-blind, randomized study of aprepitant in Japanese patients receiving high-dose cisplatin. *Cancer Sci*, 2010, 101(11):2455-2461.
 40. Nomura H, Katsumata N, Watanabe Y, Konishi I, Hiura M, Yaegashi N, et al. Randomized phase II study comparing docetaxel plus cisplatin, docetaxel plus carboplatin, and paclitaxel plus carboplatin in patients with advanced or recurrent endometrial carcinoma: a Japanese Gynecologic Oncology Group study (JGOG2041). *Ann Oncol*, 2011, 22(3):636-642.
 41. Tanioka M, Katsumata N, et al. Predictors of recurrence in breast cancer patients with a pathologic complete response after neoadjuvant chemotherapy. *Br J Cancer*, 2010, 103(3):297-302.
 42. Hashimoto K, Katsumata N, et al. The incidence and management of metachronous testicular germ cell tumors in patients with extragonadal germ cell tumors. *Urol Oncol*, 2012, 30(3):319-324.
 43. Hashimoto K, Katsumata N, et al. Prediction of progressive disease using tumor markers in metastatic breast cancer patients without target lesions in first-line chemotherapy. *Ann Oncol*, 2010, 21(11):2195-2200.
 44. Hashimoto K, Katsumata N, et al. A retrospective study of the impact of age on patterns of care for elderly patients with metastatic breast cancer. *Med Oncol*. 2011, 28(2):434-440.
 45. Yonemori K, Katsumata N, et al. Influence of suboptimal treatment in patients with mediastinal primary nonseminomatous germ cell tumors. *Oncology*, 2010, 78(1):34-39.
 46. Yonemori K, Katsumata N, et al. Immunohistochemical expression of HER1, HER3, and HER4 in HER2-positive breast cancer patients treated with trastuzumab-containing neoadjuvant chemotherapy. *J Surg Oncol*, 2010, 101(3):222-227.
 47. Tanioka M, Katsumata N, Onda T, Kasamatsu T, et al. Clinical characteristics and outcomes of women with stage IV endometrial cancer. *Med Oncol*. 2010, 27(4):1371-1377.
 48. 谷岡真樹、勝俣範之「がん薬物療法の基本的考え方、抗悪性腫瘍薬の分類」抗悪性腫瘍薬コンサルトブック2-11, 2010.
 49. 城戸秀倫、勝俣範之：「がん」看護データバンク 中山書店 10(増刊号):288-319, 2010
 50. 本田和典、勝俣範之「遅発性嘔吐」*Oncology Nursing*, 4(2):17-18, 2010.
 51. 植原貴史、勝俣範之：「CPT-11による重症下痢に対して、ロペラミド大量療法が奏効した1例」*腫瘍内科*、5(3):353-358, 2010.
 52. 小野麻紀子、勝俣範之：「乳がん患者を診る」*レジデントノート* 112(9):1519-1524, 2010.
 53. 勝俣範之(編集・監修)「がん診療レジデントマニュアル第5版」医学書院 2010年6月15日.
 54. 田部 宏、勝俣範之：「婦人科がん」*EBM がん化学療法・分子標的治療法* 中外医学社 398-403, 2010.

55. 恩田貴志：婦人科がん臨床試験参加に必要な知識「婦人科がん化学療法の有害事象-神経毒性」産科と婦人科、77(5)：578-584、2010.
56. 恩田貴志：卵巣がんに関する最新トピックス「進行卵巣癌に対するNAC化学療法への期待」産婦人科の実際、59(10)：1509-1517、2010.
57. 恩田貴志：婦人科がんに関する最近の話題「第II相試験および後方視的研究から考える卵巣癌NAC後手術のゴール」産科と婦人科、65(9)：1065-1069、2010.
58. Onda T, Yoshikawa H, et al. The optimal debulking after neoadjuvant chemotherapy in ovarian cancer: proposal based on interval look during upfront surgery setting treatment. Jpn J Clin Oncol, 2010, 40(1)：36-41.
59. Uehara T, Onda T, et al. A case of vaginal clear cell adenocarcinoma complicated with congenital anomalies of the genitourinary tract and metanephric remnant without prenatal diethylstilbestrol exposure. J Obstet Gynaecol Res, 2010, 36(3)：681-685.
60. 恩田貴志：「卵巣がん予後向上へのチャレンジ 進行卵巣癌に対する術前化学療法。」日本婦人科腫瘍学会雑誌 2011、29：6-13.
61. Uehara T, Onda T, et al. Safety and efficacy of a splenectomy during debulking surgery for Mullerian carcinoma. Eur J Gynaecol Oncol, 2011, 32(3)：269-273.
62. Togami S, Onda T, et al. A rare case of recurrent ovarian cancer presenting as a round ligament metastasis. World J Surg Oncol, 2011, 9：144.
63. Onda T, Yoshikawa H. Neoadjuvant chemotherapy for advanced ovarian cancer: overview of outcomes and unanswered questions. Expert Review of Anticancer Therapy, 2011, 11(7)：1053-1067.
64. Onda T, Yoshikawa H, Kamura T, et al. The history of the Gynecologic Cancer Study Group (GCSG) of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG). Jpn J Clin Oncol, 2011, 41(10)：1156-1161.
65. Koga Y, Onda T, et al. Novel virtual cytological analysis for the detection of endometrial cancer cells using autoscan fluoromicroscopy. Cancer Sci, 2011, 102(5)：1068-1075.
66. Togami S, Kasamatsu T, Onda T, et al. Serous adenocarcinoma of the uterine cervix: a clinicopathological study of 12 cases and a review of the literature. Gynecol Obstet Invest, 2012, 73(1)：26-31.
67. 恩田貴志：婦人科悪性腫瘍の診断治療アップデート；卵巣がん「外科治療」産婦人科の実際 2012、61(3)：409-415.
68. 恩田貴志：「再発卵巣癌に対する手術療法」北里医学 2012、42(1)：9-18.
69. 恩田貴志：術前化学療法の新展開「卵巣癌」癌と化学療法 2012、39(6)：882-886.
70. 恩田貴志：婦人科がん-最新の研究動向- 卵巣がん 卵巣癌の治療 化学療法 術前化学療法. 日本臨床 2012、70：617-621.
71. 恩田貴志：「産婦人科の薬剤使用プラクティス：病態別処方-婦人科編」腫瘍 再発卵巣癌. 産婦人科の実際、2012、61(11)：1816-1822.
72. 松本光史：「進行再発乳がんの化学療法(単剤か多剤併用か)」腫瘍内科 2011、7(4)：336-339.
73. 松本光史：「乳がんが再発したらどのような治療がありますか？」治療(J. Therap.) 増刊号 2011、93(4)：1096-1098.

74. 松本光史:「【再発卵巣がん治療】セカンドライン化学療法」臨床婦人科産科 2011, 65(7):931-938.
75. 松本光史:「がん薬物療法専門医のための模擬テスト」腫瘍内科, 2011, 7(5):467.
76. 松本光史:「がん薬物療法専門医のための模擬テスト 17 -解答と解説-」腫瘍内科 2011, 7(6):595-596.
77. 糸口直江、松本光史:「トラスツズマブとラパチニブのエビデンスの整理」Biotherapy, 2011, 25(3): 661-672.
78. 松本光史:「腫瘍内科医の役割とは」medicina 2011, 48(13)2062-2065.
79. 北尾章人、松本光史:「新しい制吐薬を活用する -イメンド・アロキシ-」緩和ケア 2011, 21(6):591-596.
80. Matsumoto K, Katsumata N, Konihshi I, Kamura T, et al. Phase II study of oral etoposide and intravenous irinotecan for patients with platinum-resistant and taxane-pretreated ovarian cancer: Japan Clinical Oncology Group Study 0503, Jpn J Clin Oncol, 2012, 42(3):222-225.
81. 北尾章人、松本光史: 特集 術前補助化学療法をめぐって 1 術前補助化学療法の適応と実際-3) 乳がんに対する術前補助化学療法の実際 ② 具合的なレジメンと、施行の実際 臨床腫瘍プラクティス, 2012, 8(2):131-136
82. 北尾章人、松本光史:婦人科がん -最新の研究動向- IV 卵巣がん 再発卵巣癌の治療 日本臨床 2012, 70(4): 628-633
83. 松本光史:特集 血管新生阻害薬-最新情報のすべて ベバシズマブ 2) 卵巣がんに対する GOG218, ICON7, OCEANS 試験の評価 腫瘍内科, 2012, 9(5):490-494
84. 福正りさ、松本光史:新規 NK1 receptor antagonist (fosaprepitant)ホスアプレピタントについて 腫瘍内科, 2012, 10(2): 145-161.
85. 富永 亮、松本光史:IV乳癌の浸潤・転移 乳癌髄膜播腫の臨床的特徴 日本臨床 2012, 70(7): 143-146.
86. 北尾章人、松本光史:特集 腎がん薬物療法の標準化 ソラフェニブ 腫瘍内科 2012, 10(4):308-316.
87. 北尾章人、松本光史:抗がん剤副作用対策 急性過敏性反応 産婦人科の実際 2012, 61(11):1838
88. 北尾章人、松本光史:「胃がん薬物療法の標準化」腫瘍内科 2012, 10(4):308-316
89. Ushijima K, Kobayashi H, Kamura T, et al. Phase II trial of bi-weekly docetaxel and monthly carboplatin in the treatment of platinum sensitive recurrent ovarian or tubal cancer (WJGOG 041). The 13rd Biennial meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS2010), October. 23-26, 2010, Prague.
90. Kawano K, Kamura T, et al. A case of minimal uterine serous carcinoma with distant lymph node metastasis without peritoneal dissemination, J Gynecol Oncol, 2011, 22(1):53-56.
91. Ushijima K, Kamura T, Ochiai K, et al. Docetaxel / Irinotecan combination chemotherapy in platinum / taxan refractory and resistant ovarian cancer - JGOG/WJGOG intergroup study-, Int J Clin Oncol. 2013, 18(1):126-131.
92. Takemoto S, Kamura T, et al. Precise evaluation of chemotherapy - induced peripheral neuropathy using the visual analogue scale : a quantitative and comparative analysis of neuropathy occurring with paclitaxel - carboplatin and docetaxel-carboplatin therapy. Int J Clin Oncol, 2012, 17(4): 367- 372.
93. Kitagawa R, Katsumata N, Yoshikawa H, Nakanishi T, Kamura T, et al. A multi-institutional phase II trial

- of paclitaxel and carboplatin in the treatment of advanced or recurrent cervical cancer. *Gynecol Oncol*, 2012, 125(2): 307-311.
94. Ushijima K, Kamura T, et al. Controversies surrounding type III radical abdominal hysterectomy and its procedure using new instruments, *Korean J Obstet Gynecol*, 2012, 55(4):225-229.
 95. Fukui A, Kamura T, et al. Identification of B cell epitopes reactive to human papillomavirus type -16L1- derived peptides, *Virology Journal*, 2012, 9:199.
 96. Nagase S, Hiura M, Katsumata N, Kobayashi H, Konishi I, Ochiai K, Hoshiai H, Yoshikawa H, Yaegashi N, et al. Evidence-based guidelines for treatment of uterine body neoplasm in Japan: Japan Society of Gynecologic Oncology (JSGO) 2009 edition. *Int J Clin Oncol*, 2010, 15(6): 531-542.
 97. Sakuma M, Yaegashi N, et al. Malignant transformation of mature cystic teratoma of the ovary: A retrospective study of 20 cases. *Int J Gynecol Cancer*, 2010, 20(5): 766-771.
 98. Shoji T, Yaegashi Y, et al. Phase II clinical study of the combination chemotherapy regimen of irinotecan plus oral etoposide for the treatment of recurrent ovarian cancer (Tohoku Gynecologic Cancer Unit 101 Group Study). *Int J Gynecol Cancer*, 2011, 21(1):44-50.
 99. Hiura H, Yaegashi N, et al. High-throughput detection of aberrant imprint methylation in the ovarian cancer by the bisulphite PCR-Luminex method : *BMC Med Genomics*, 2012, 5:8.
 100. Miyai K, Takano M, et al. Massive intra-abdominal undifferentiated carcinoma derived from an endometrioid adenocarcinoma in a "normal-sized" ovary. *Int J Gynecol Pathol*, 2010, 29(4): 321-327.
 101. Takano M, Yaegashi N, et al. Identification of potential serum markers for endometrial cancer using protein expression profiling. *J Cancer Res Clin Oncol*, 2010, 136(3): 475-481.
 102. Takano M, et al. Indispensability of UGT1A1*6 genotyping in Japanese cancer patients treated with irinotecan. *Int J Clin Oncol*, 2010, 15(2):224-225.
 103. Goto T, Takano M, et al. Single nedaplatin treatment as salvage chemotherapy for platinum/taxane-resistant/refractory epithelial ovarian, tubal and peritoneal cancers. *J Obstet Gynaecol Res*, 2010, 36(4):764-768.
 104. Takakura S, Takano M, Saito T, Ochiai K, et al. Japanese Gynecologic Oncology Group. Randomized phase II trial of paclitaxel plus carboplatin therapy versus irinotecan plus cisplatin therapy as first line chemotherapy for clear cell adenocarcinoma of the ovary: a JGOG study. *Int J Gynecol Cancer*, 2010, 20(2): 240-247.
 105. Leitao B, Takano M, et al. Silencing of the JNK pathway maintains progesterone receptor activity in decidualizing human endometrial stromal cells exposed to oxidative stress signals. *FASEB J*, 2010, 24(5): 1541-1551.
 106. Takano M, Yaegashi N, et al. Less Impact of Adjuvant Chemotherapy for Stage I Clear Cell Carcinoma of the Ovary: A Retrospective Japan Clear Cell Carcinoma Study. *Int J Gynecol Cancer*, 2010, 20(9): 1506-1510.

107. Yamamoto S, Takano M, et al. Cumulative alterations of p27-related cell-cycle regulators in the development of endometriosis-associated ovarian clear cell adenocarcinoma. *Histopathology*, 2010, 56(6): 740-749.
108. Tominaga E, Takano M, et al. Amplification of GNAS may be an independent, qualitative, and reproducible biomarker to predict progression-free survival in epithelial ovarian cancer. *Gynecol Oncol*, 2010, 118(2): 160-166.
109. Nishimura S, Takano M, Yaegashi N, et al. Differential expression of hypoxia-inducible protein 2 among different histological types of epithelial ovarian cancer and in clear cell adenocarcinomas. *Int J Gynecol Cancer*, 2010, 20(2):220-226.
110. Takano M, et al. Clear Cell Carcinoma of the Ovary: Prognosis Using Cytoreductive Surgery. In *methods of cancer diagnosis, therapy, and prognosis*, 2010, 6 (Hayat MA, Ed):85-91.
111. Takano M, et al. Pathological characteristics of clear cell carcinoma of the ovary. In *chemotherapeutic strategies for Ovarian Carcinoma* (Kikuchi Y, Sugiyama T, and Takano M, Eds) *Transworld research network*, 2010, 113-122.
112. 高野政志、他: 卵巣癌治療における新たな展開 2. 組織型別化学療法: 卵巣明細胞腺癌に塩酸イリノテカンは無効か? *日本婦人科腫瘍学会雑誌*, 2010; 28(2): 385-395.
113. 高野政志、他: 特集 婦人科がんに関する最近の話題 「5. イリノテカン有害事象と UGT1A1 遺伝子多型」 *産科と婦人科*, 2010, 77(9): 1036-1043.
114. 高野政志、他. 卵巣癌予後向上へのチャレンジ 「分子標的薬をいかに卵巣がん治療に導入するか」 *日本婦人科腫瘍学会雑誌*, 2011, 29(1):1-5.
115. 喜多恒和、高野政志、他: 婦人科腫瘍と遺伝子 -注目される遺伝子とその役割、そして臨床応用へ- パクリタキセルとベバシズマブと VEGF. *産婦人科の実際*, 2010, 59(7): 1093-1098.
116. 笹 秀典、高野政志、他. 「子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術の有用性と限界について」 *防衛医科大学校雑誌*, 2010, 35:195-201.
117. 宮本守員、高野政志、他: 「卵巣明細胞腺癌は予後不良因子なのか?」 *日本婦人科腫瘍学会雑誌*, 2011, 29(1): 98-106.
118. 加藤雅史、高野政志、他: 「子宮体癌と卵巣癌の同時性重複癌の検討」 *産婦人科の実際*, 2010, 59(3): 527-529.
119. Goto T, Takano M, et al. Potential survival benefit of secondary cytoreductive surgery for recurrent epithelial ovarian, tubal, and peritoneal cancers. *Int J Gynecol Cancer*, 2011, 21(2): 263-268.
120. Yamamoto S, Takano M, Yaegashi N, et al. Validation of the histologic grading for ovarian clear cell adenocarcinoma: a retrospective multi-institutional study by the Japan Clear Cell Carcinoma Study Group. *Int J Gynecol Pathol*, 2011, 30(2): 129-138.
121. Takano M, et al. Weekly administration of temsirolimus for heavily pretreated patients with clear cell carcinoma of the ovary: a report of six cases. *Int J Clin Oncol*, 2011, 16(5):605-609.
122. Kudoh K, Takano M, et al. Effects of bevacizumab and pegylated liposomal doxorubicin for the patients with recurrent or refractory ovarian cancers. *Gynecol Oncol*, 2011, 122(2): 233-237.

123. Yamamoto S, Takano M, et al. Clear cell adenocarcinoma with a component of poorly differentiated histology: a poor prognostic subgroup of ovarian clear cell adenocarcinoma. *Int J Gynecol Pathol*, 2011, 30(5): 431-441.
124. Yamamoto S, Takano M, et al. Gene amplification and protein overexpression of MET are common events in ovarian clear-cell adenocarcinoma: their roles in tumor progression and prognostication of the patient. *Mod Pathol*, 2011, 24(8): 1146-1155.
125. Yamamoto S, Takano M, et al. PIK3CA mutation is an early event in the development of endometriosis-associated ovarian clear cell adenocarcinoma. *J Pathol*, 2011, 225(2): 189-194.
126. Takano M, et al. Complete remission of recurrent and refractory uterine epithelioid leiomyosarcoma using weekly administration of bevacizumab and temozolomide. *Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol*, 2011, 157(2): 236-238.
127. 宮本守員、高野政志、他:「胸水貯留を初発症状とし、子宮体癌と鑑別を要した卵管癌の一例」日本臨床細胞学会埼玉支部会誌 29:12-15、2011年
128. 宮本守員、高野政志、他:「早期の卵巣癌に対する系統的リンパ節郭清の治療的意義」癌と化学療法 2011, 38(11):1837-1840.
129. 古谷健一、高野政志、他:「子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術(UAE):適応と治療成績」産婦人科治療, 2011, 103(6):604-608.
130. 宮本守員、高野政志、他:「子宮体癌臨床進行期 I/II 期に対する子宮摘出の術式の検討」日本婦人科腫瘍学会雑誌, 2011, 29(4):845-851.
131. 精きぐな、高野政志、他:「画像診断と針生検-針生検で治療方針を決定した atypical polypoid adenomyoma」子宮筋層病変生検研究会誌, 2011, 11(1):10-11.
132. 今井瑞葉、高野政志、他:「子宮筋腫分娩の治療法に関する検討」埼玉県医学会雑誌, 2011, 46(1): 261-265.
133. 三上幹男、高野政志、他:「第4章 IB期とII期の術後補助療法、第5章III期とIV期の主治療」日本婦人科腫瘍学会編「子宮頸癌治療ガイドライン2011年版」金原出版株式会社 2011.11月
134. 高野政志、他:「分子標的薬をいかに卵巣がん治療に導入するか?」日本婦人科腫瘍学会雑誌, 2011, 29(1):1-5.
135. 高野政志、他:「卵巣がんの薬物療法-その現状と将来展望 2. 卵巣がん薬物療法の実例 1」上皮性癌に対する治療 ②組織型別卵巣がんの治療 a) 明細胞腺癌に対する薬物療法」臨床腫瘍プラクティス 2011, 7(2):155-158.
136. 高野政志. 「早期卵巣がんに対する化学療法の効果~ECO trial 提言の背景~」第9回婦人科悪性腫瘍研究機構年次会議(総会)記録集 120-124 2011.
137. Yoshikawa T, Takano M, et al. Normal serum CA125 half-life and normal serum nadir CA125 level in patients with ovarian cancers. *Eur J Gynaecol Oncol*, 2012, 13(3): 269-273.
138. Kato M, Takano M, et al. The mTOR-HIF-1 α -Glut1 signaling is highly associated with ovarian clear-cell adenocarcinoma development. *Int J Gynecol Pathol*, 2012, 31(3): 254-263.
139. Yamamoto S, Takano M, et al. Accumulative copy number increase of MET drives tumor development and histological progression in a subset of ovarian clear-cell adenocarcinomas. *Mod Pathol*, 2012, 25(1):122-130.
140. Yamamoto S, Takano M, et al. ACTN4 gene amplification and actinin-4 protein overexpression drive tumour development and histological

- progression in a high-grade subset of ovarian clear-cell adenocarcinomas. *Histopathology*, 2012, 60(7): 1073 -1083.
141. Yamamoto S, Takano M, et al. PIK3CA mutations and loss of ARID1A protein expression are early events in the development of cystic ovarian clear cell adenocarcinoma. *Virchows Arch*, 2012, 460(1): 77-87.
 142. Yamamoto S, Takano M, et al. Loss of ARID1A protein expression occurs as an early event in ovarian clear-cell carcinoma development and frequently coexists with PIK3CA mutations. *Mod Pathol*, 2012, 25(4):615-624.
 143. Goto T, Takano M, et al. Outcomes of palliative bowel surgery for malignant bowel obstruction in patients with gynecological malignancy. *Oncol Lett*, 2012, 4(5):883-888.
 144. Yamamoto S, Takano M, et al. Histological grading of ovarian clear cell adenocarcinoma: proposal for a simple and reproducible grouping system based on tumor growth architecture. *Int J Gynecol Pathol*, 2012, 31(2): 116-124.
 145. Takano M, et al. Clear cell carcinoma of the ovary: Is there a role of histology-specific treatment? *J Exp Clin Cancer Res*, 2012; 31:53.
 146. Oda T, Takano M, et al. Immunocytochemistry of mesenteric malignant mixed müllerian tumour in peritoneal effusion cytology: case report. *Cytopathology*, 2012, 23(5): 334-337.
 147. Goto T, Takano M, et al. Prognosis of high-grade endometrial cancer: A comparison of serous type and clear cell type to Grade 3 endometrioid type. *Eur J Gynaecol Oncol*, 2012, 33(6): 579-583.
 148. Miyamoto M, Takano M, et al. Large cell neuroendocrine carcinoma arising in mature cystic teratoma: a case report and review of the literature. *Eur J Gynaecol Oncol*, 2012, 33(4):414-418.
 149. Takano M, et al. Complete remission of recurrent and refractory ovarian cancers using weekly administration of bevacizumab and gemcitabine/oxaliplatin. *Eur J Gynaecol Oncol*, 2013, 34(1):90-93.
 150. Ikeda Y, Takano M, et al. Weekly administration of bevacizumab, gemcitabine, and oxaliplatin in patients with recurrent and refractory ovarian cancer: a preliminary result of 19 cases. *Int J Gynaecol Oncol*, 2013, 23(2): 355-360.
 151. Miyamoto M, Takano M, et al. Clear cell histology as a poor prognostic factor for advanced epithelial ovarian cancer: A single institutional case series through central pathologic review. *J Gynecol Oncol*, 2013, 24(1): 37-43.
 152. Takano M, et al. Complete remission of recurrent ovarian clear cell carcinoma by chemotherapy with bevacizumab, trabectedin, and oxaliplatin. *J Obstet Gynaecol Res*, in press.
 153. Takano M, et al. Short response duration even in responders to chemotherapy using conventional cytotoxic agents in recurrent or refractory clear cell carcinomas of the ovary. *Int J Clin Oncol*, in press.
 154. Takano M, Yokota H, et al. UGT1A1 genotype-specific phase I and pharmacokinetic study for combination chemotherapy with irinotecan and cisplatin: a Saitama

- tumor board study. *Eur J Gynaecol Oncol*, in press.
155. 笹 秀典、高野政志、他：「子宮頸部病変に対するループ式電気円錐切除法 (LEEP) の優位性」 *防衛医科大学校雑誌* 2012, 37(3):197-202.
 156. 笹 秀典、高野政志、他：「卵管間質部妊娠の保存療法-3 例の検討」 *埼玉産科婦人科学会雑誌*, 2012, 42: 131-136.
 157. 古谷健一、高野政志、他：「産科外来診療フローチャート-妊婦管理のすべて-合併症妊娠の評価と管理:卵巣腫瘍」 *産婦人科の実際*, 2012, 61(7): 1071-1073.
 158. 高野政志、他:特集[卵巣明細胞腺癌と子宮内膜症-分子生物学的アプローチと治療戦略の展望]卵巣明細胞腺癌の治療と今後の展望. *産科と婦人科*, 2012, 79(10):1211-1216.
 159. 古谷健一、高野政志、他：「産婦人科学に求められる近未来像 -常に前向きな姿勢が魅力ある産婦人科を作る-」 *産婦人科の実際*, 2012, 61(10):1411-1416.
 160. 宮本守員、高野政志、他：「大細胞神経内分泌癌への分化を示した成熟嚢胞性奇形腫の悪性転化の一例」 *日本婦人科腫瘍学会雑誌*, 2012, 30(1): 80-85.
 161. 加藤雅史、高野政志、他：「当院で経験した子宮腺肉腫の 3 症例」 *日本婦人科腫瘍学会雑誌*, 2012, 30(2): 143-150.
 162. 小宮慎之介、高野政志、他：「ベバシズマブ、ゲムシタピン、オキサリプラチン併用療法が著効を示した多剤耐性卵巣漿液性腺癌の 2 例」 *日本産科婦人科学会関東連合地方部会会報*, 2012, 49: 627-631.
 163. 加藤雅史、高野政志、他：「CIN 合併妊婦における妊娠中の保存的管理に関する検討」 *日本臨床細胞学会雑誌*, 印刷中
 164. Hosono S, Nakanishi T, et al. Association between dietary calcium and vitamin D intake and cervical carcinogenesis among Japanese women. *Eur J Clin Nutr*, 2010, 64(4): 400-409.
 165. Fujiwara S, Nakanishi T, et al. Thyroid transcription factor 1 expression in ovarian carcinomas is an independent prognostic factor. *Hum Pathol*, 2010, 41(4): 560-565.
 166. Hosono S, Nakanishi T, et al. HLA-A alleles and the risk of cervical squamous cell carcinoma in Japanese women. *J Epidemiol*, 2010, 20(4): 295-301.
 167. Matsumura N, Konishi I, et al. Epigenetic suppression of the TGF-beta pathway revealed by transcriptome profiling in ovarian cancer. *Genome Res*, 2011, 21(1): 74-82.
 168. Abiko K, Konishi I, et al. Oct4 expression in immature teratoma of the ovary: relevance to histologic grade and degree of differentiation. *Am J Surg Pathol*, 2010, 34(12): 1842-1848.
 169. Okamoto T, Konishi I, et al. Distinguishing primary from secondary mucinous ovarian tumors: an algorithm using the novel marker DPEP1. *Mod Pathol*, 2011, 24(2): 267-276.
 170. Matsumura N, Konishi I, et al. Sorafenib efficacy in ovarian clear cell carcinoma revealed by transcriptome profiling. *Cancer Sci*. 2010, 101(12): 2658-2663.
 171. Yamaguchi K, Konishi I, et al. Identification of an ovarian clear cell carcinoma gene signature that reflects inherent disease biology and the carcinogenic processes. *Oncogene*, 2010, 29(12):1741-1752.
 172. Watanabe Y, Hoshiai H, et al. Feasibility study of oral cyclophosphamide salvage therapy for the treatment of heavily pretreated patients with recurrent epithelial ovarian cancer. *Int J*

- Clin Oncol, 2010, 15(5):468-471.
173. Watanabe Y, Hoshiai H, Nakanishi T, Ochiai K, et al. Evaluation of oral etoposide in combination with cisplatin for patients with recurrent cervical cancer: long-term follow-up results of a Japanese multicenter study. *Anticancer Res*, 2011, 31(9): 3063-3067.
174. Hata K, Watanabe Y, Hoshiai H, et al. Expression of the vascular endothelial cell growth factor (VEGF) gene in epithelial ovarian cancer: an approach to anti-VEGF therapy. *Anticancer Res*, 2011, 31(2):731-737.
175. Watanabe Y, Nakai H, et al. Adenocarcinoma of the lower female genital tract in patients with Herlyn-Werner-Wunderlich syndrome. *Am J Obstet Gynecol*, 2012, 207(6):e5-6.
176. Okadome M, Saito T, et al. Postoperative pulmonary embolism including asymptomatic cases in gynecologic oncology. *Int J Gynecol Cancer*, 2010, 20(4): 655-663.
177. 齋藤俊章:「再発卵巣癌の化学療法-プラチナ感受性を基にした現在の治療戦略」日本産科婦人科学会雑誌、2010, 62(6):1066-1074.
178. Yanazume S, Saito T, et al. Reassessment of the utility of frozen sections in endometrial cancer surgery using tumor diameter as an additional factor. *Am J Obstet Gynecol*. 2011, 204(6): 531.e1-e7.
179. Yasunaga M, Saito T, et al. Dedifferentiated chondrosarcoma arising in a mature cystic teratoma of the ovary: a case report and review of the literature. *Int J Gynecol Pathol*, 2011, 30(4): 391-394.
180. Yamada Y, Saitou T, et al. Sclerosing variant of perivascular epithelioid cell tumor in the female genital organs. *Pathology International*, 2011, 61(12): 768-772.
181. 齋藤俊章:「再発子宮頸癌の治療-治療をめざすには-」日本婦人科腫瘍学会雑誌, 2011, 29(2):278-285.
182. 有吉和也、齋藤俊章:「卵巣がん 最新の治療戦略【再発卵巣がん治療】TC療法の適応と限界」臨床婦人科産科 2011, 65(7):924-930.
183. 齋藤俊章:「子宮頸癌 I b2 期とその治療」産婦人科治療, 2011, 102(6): 967-974.
184. 齋藤俊章:「稀な婦人科がんの診療ストラテジー、外陰癌、悪性黒色腫(メラノーマ)」産婦人科の実際, 2011, 60(8): 1123-1132.
185. 齋藤俊章:「クリニカルディベート 1) 腫瘍、3)子宮頸癌 I b2 期に対する治療、5)広汎子宮全摘術適用の立場に立って」日本産科婦人科学会雑誌 2011, 63(12): N-140-N-145.
186. 有吉和也、齋藤俊章:「外陰癌の手術療法」産婦人科治療, 2011, 103(6): 637-642.
187. Eto T, Saito T, Kasamatsu T, Nakanishi T, Yokota H, Nogawa T, Yoshikawa H, Kamura T, Konishi I, et al. Clinicopathological prognostic factors and the role of cytoreduction in surgical stage IVb endometrial cancer: A retrospective multi-institutional analysis of 248 patients in Japan. *Gynecol Oncol*, 2012, 127(2):338-344.
188. 齋藤俊章:「外陰癌の新しい FIGO 進行期分類 New FIGO staging for vulvar cancer」日本臨床, 2012, 70 (suppl. 4):677-682.
189. 河村英彦、齋藤俊章、他:「卵巣に発生した低悪性度子宮内膜間質肉腫の一例」福岡産科婦人科学会雑誌, 2012, 36: 8-12.

190. Hagiwara T, Kobayashi H, Saito T, et al. Well-differentiated villoglandular adenocarcinoma of the uterine cervix: assessment of cytological features by histological subtypes. *Acta Cytologica*, 2013, 57(1):61-68.
191. 高倉 聡、落合和徳、他:「【がん合併症の管理】リンパ浮腫. 癌と化学療法 2011, 38(4):528-533.
192. Hashimoto T, Ochiai K, et al. Cyclin D1 predicts the prognosis of advanced serous ovarian cancer. *Exp Ther Med*, 2011, 2(2):213-219.
193. Katsumata N, Ochiai K, et al. Phase II study of S-1, an oral fluoropyrimidine, in patients with advanced or recurrent cervical cancer. *Ann Oncol*, 2011, 22(6):1353-1357.
194. 大浦訓章、落合和徳、他:「産婦人科手技シリーズ 周産期手術 子宮内容除去術」産科と婦人科, 2011, 78(1):1-11.
195. 坂本 優、落合和徳、他. 「【婦人科がんのMolecular Biology】ゲノム異常」産科と婦人科, 2011, 78(1):33-44.
196. 矢内原 臨、落合和徳、他:「【婦人科がんのMolecular Biology】細胞周期」産科と婦人科, 2011, 78(1):54-58.
197. 高倉 聡、落合和徳、他:「【がん合併症の管理】リンパ浮腫」癌と化学療法 2011, 38(4):528-533.
198. 佐藤佳世、落合和徳、他:「診断の指針 治療の指針 卵巣がんのスクリーニング」総合臨床 2011, 60(5):787-788.
199. 藤原恵一、落合和徳、他:「婦人科グループの取り組み JGOG から世界への挑戦」腫瘍内科, 2011, 7(5):476-480.
200. 坂本 優、落合和徳、他:「子宮頸部病変の保存的治療 とくに子宮温存療法の種類とその適応について」日本婦人科腫瘍学会雑誌, 2011, 29(3):80-690.
201. Yanaiharu N, Ochiai K, et al. Cytokine gene expression signature in ovarian clear cell carcinoma. *Int J Oncol*, 2012, 41(3):1094-1100.
202. Maeda D, Nakagawa S, et al. Rsf-1 (HBXAP) expression is associated with advanced stage and lymph node metastasis in ovarian clear cell carcinoma. *Int J Gynecol Pathol*, 2011, 30(1):30-35.
203. Maeda D, Nakagawa S, et al. β -catenin (CTNNB1) S33C mutation in ovarian microcystic stromal tumors. *Am J Surg Pathol*, 2011, 35(10):1429-1440.
204. Arimoto T, Nakagawa S, Kawana K, et al. Retreatment with nedaplatin in patients with recurrent gynecological cancer after the development of hypersensitivity reaction to carboplatin. *J Obstet Gynaecol Res*, 2013, 39(1):336-340.
205. Arimoto T, Nakagawa S, Kawana K, et al. Second-line chemotherapy with docetaxel and carboplatin in paclitaxel and platinum-pretreated ovarian, fallopian tube, and peritoneal cancer. *Med Oncol*, 2012, 29(2): 1253-1254.
206. Kazumoto T, Yokota H, et al. Is a low dose of concomitant chemotherapy with extended-field radiotherapy acceptable as an efficient treatment for cervical cancer patients with metastases to the para-aortic lymph nodes?. *Int J Gynecol Cancer*, 2011, 21(8): 1465-1471.
207. 横田治重:増刊号 婦人科がん—最新の研究動向— II 子宮頸がん 11. 腺癌、腺扁平上皮癌の治療 日本臨床、2012, 70(1022): 265-268.
208. 横田治重:「子宮頸癌—腺癌・腺扁平上皮癌の治療」産婦実際 2012, 61(3):329-334.
209. 日浦昌道、野河孝充、他:「子宮体癌の妊孕能温存療法」産婦治療. 2010、

- 100(3):253-257.
210. 日浦昌道、野河孝充：「高度癒着例に対する単純子宮全摘術」 OGS NOW No.2 腹式単純子宮全摘術. 2010、132-144.
211. 日浦昌道、野河孝充：「1. 婦人科領域 Brenner 腫瘍、未分化胚細胞腫、絨毛癌、侵入奇胎」 アトラス 細胞診と病理診断. 医学書院 49-50, 53-54, 2010、6月.
212. 野河孝充、日浦昌道：1. 婦人科領域顆粒膜細胞腫、胞状奇胎. アトラス 細胞診と病理診断. 医学書院、51-52, 2010、6月.
213. Hiura M, Nogawa T, et al.: Long-term survival in patients with para-aortic lymph node metastasis with systematic retroperitoneal lymphadenectomy followed by adjuvant chemotherapy in endometrial carcinoma. *Int J Gynecol Cancer*. 2010, 20(6): 1000-1005.
214. 日浦昌道、野河孝充：特集 胸水・腹水の病理 「腹腔内洗浄細胞診の診断と臨床的意義 II. 婦人科悪性腫瘍」病理と臨床、光文堂、東京、2010、28(11):1171-1175.
215. 日浦昌道、野河孝充：子宮体癌の診断と治療 5 子宮体癌の術後補助療法. 臨床婦人科産科 医学書院、東京. 2010、64(12):1650-1656.
216. 日本婦人科腫瘍学会 編：患者さんご家族のための子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん治療ガイドラインの解説、金原出版、2010、12月.
217. Hiura M, Nogawa T. The Role of Modified Radical Hysterectomy in Endometrial Carcinoma. HYSTERECTOMY. 2012, pp51-74, INTEC, Croatia.
218. 野河孝充、日浦昌道：婦人科がん—最新の研究動向—V. 外陰・膣がん 「外因癌・膣癌の治療」日本臨牀. 2012、70(増刊号4):687-691,
219. 大亀真一、野河孝充：PART.4 卵巣癌の最新医学「早期卵巣がんの治療方針」からだの科学. 2012、274: 123-125
220. 野河孝充：婦人科腫瘍登録—本邦の婦人科腫瘍登録と頸癌・体癌の取扱い規約改訂について—. 愛媛県産婦人科医学会報. 2012、48:8-9.
221. 野河孝充：II. 子宮体部の細胞診・組織診 6. ヒステロスコープのコツ. 婦人科外来診療のための細胞診・組織診のすべて 研修ノート. 2012、90:87-97.
222. 松岡直樹、野河孝充、他：「右腎盂尿管術後の再発膀胱摘出後に膣に再々発したい移行上皮癌の臨床病理学的検討」現代産婦人科、2012、61(1):131-135.
223. Kurihara S, Kobayashi H, et al. Coincident expression of beta-catenin and cyclin D1 in endometrial stromal tumors and related high-grade sarcomas. *Mod Pathol*, 2010, 23(2): 225-234.
224. Ohishi Y, Kobayashi H, et al. Hobnail-like cells in serous borderline tumor do not represent concomitant incipient clear cell neoplasms. *Hum Pathol*, 2009, 240(8): 1168-1175.
225. Ogawa S, Kobayashi H, et al. Sentinel node detection with (99m)Tc phytate alone is satisfactory for cervical cancer patients undergoing radical hysterectomy and pelvic lymphadenectomy. *Int J Clin Oncol*. 2010, 15(1): 52-58.
226. Nakamura I, Kobayashi H, et al. Comparative study of peripheral neurotoxicity after injection of two different paclitaxel formulations in rats. *Arzneimittel Forschung Drug Research*, 2010, 60(4): 205-209.
227. Ohgami T, Kobayashi H, et al. Low-dose mithramycin exerts its anticancer effect via the p53 signaling pathway and synergizes

- with nutlin-3 in gynecologic cancers. *Cancer Sci*, 2010, 101(6): 1387-1395.
228. Kaneki E, Kobayashi H, et al. Incidence of postmolar gestational trophoblastic disease in androgenetic moles and the morphological features associated with low risk postmolar gestational trophoblastic disease. *Cancer Sci*, 2010, 101(7):1717- 1721.
229. Okuma E, Kobayashi H, et al. Cytoplasmic and stromal expression of laminin? 2 chain correlates with infiltrative invasion in ovarian mucinous neoplasms of gastro-intestinal type. *Oncol Rep*, 2010, 24(6):1569-1576.
230. Nishimura I, Kobayashi H, et al. Expression and localization of E-cadherin and β -catenin in uterine carcinosarcoma. *Virchows Arch*, 2011, 458(1):85-94.
231. Ohishi Y, Kobayashi H, et al. Nuclear localization of E-cadherin but not beta-catenin in human ovarian granulosa cell tumours and normal ovarian follicles and ovarian stroma. *Histopathology*, 2011, 58(3):423 -432.
232. Ohishi Y, Kobayashi H, et al. E-cadherin nuclear staining is useful for the diagnosis of ovarian adult granulosa cell tumor. *Hum Pathol*, 2012, 43(6): 808-817.
233. Li Dan, Kobayashi H, Saito T, et al. Inhibition of AHR transcription by NF1C is affected by a single nucleotide polymorphism, and is involved in suppression of human uterine endometrial cancer. *Oncogene*. in press
234. Kamimori T, Takehshima N, et al. Parametrial involvement in FIGO stage IB1 cervical carcinoma. Diagnostic impact of tumor diameter in preoperative magnetic resonance imaging. *Int J Gynecol Cancer*, 2011, 21(2):349-354.
235. 野村秀高、竹島信宏、他:「大腸癌術後サーベイランスのPDG-PET で子宮体癌が発見された Lynch syndrome の1例」*日産婦東京地方部会誌*, 2011, 60(1):41-45.
236. Hirai M, Takehshima N, et al. Stage IA ovarian cancers: Comparison of sonographic findings and histopathologic types between patients with normal and elevated serum cancer antigen 125 levels. *J Ultrasound Med*, 2011, 30(7):943-952.
237. 町田弘子、竹島信宏、他:「若年進行 endometrial stromal sarcoma (ESS) の1症例」*日産婦東京地方部会誌*, 2011, 60(2):313-318.
238. Ota T, Takehshima N, et al. Second-line chemotherapy for carboplatin/ paclitaxel-refractory ovarian cancer: are multi-agent chemotherapies of little value truly? *Eur J Gynaecol Oncol*, 2011, 32(5):471-475.
239. 的田真紀、竹島信宏、他:「子宮頸癌の手術と化学療法—標準治療」*臨床放射線*, 2011, 56(11):1577-1583.
240. Matoda M, Takehshima N, et al. The treatment of uterine leiomyosarcoma: Clinical outcomes of 18 cases and the effectiveness of chemotherapy. *Eur J Gynaecol Oncol*, 2011, 32(6): 647-650.
241. Omatsu K, Takehshima N, et al. Unexpected tumor progression after conization for carcinoma in situ of the uterine cervix. *J Obstet Gynaecol Res*, 2012, 38(1):84-88.
242. 宇佐美知香、竹島信宏、他:「子宮頸癌放射線治療後の腫瘍残存に対し広汎子宮全摘術及び基靭帯断端部への小線源照射を行った1例」*日産婦東京地方部会誌*, 2012, 60(4):589-593.